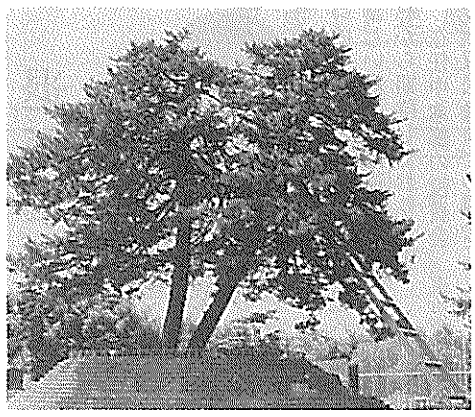

双松会会報

第21号「双松会」通巻26号「松高北高同窓会報」通巻26号

発　行　松江市奥谷町164
島根県立松江北高等学校内　双松会事務局　TEL㉑4888・㉑0655
印　刷　有限会社　高浜印刷　TEL㊱9100

ごあいさつ

会長　井戸内　正

双松会員の皆様にはますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

去る八月二十八日、本会の役員会において金築修会長のご退任に伴い、この度、双松会長に選任されましたことはまことに光栄に存じます。

私はもとより不敏非才の身でありまして伝統ある双松会長の重責に耐え得るやを危惧するものでございますが、会員の皆様のご指導と学校当局のご協力を賜わりつ、その責務を果たす覚悟であります。

私は昭和二十年の春、吾が国が激動の最中に赤山を巣立ってから五十五年。時の流れは休むことなく過ぎ去った跡を顧みればその速さに驚いています。（松中六十五期）双松を仰ぎながら共に学んだ少年の日の出会いが、生涯を通じて珠玉の友情をあたえてくれた赤山時代であったことを思い、しみじみとその幸せに感謝するこの頃であります。

昭和四十一年五月二十二日、開校九十周年の記念の日に、母校が赤山に復帰することが決議され、このことは私たちの長年の悲願であり感激一入なものがありました。

しかし、附中が大輪町へ、松江一中が赤山から附中跡地（外中原町師範学校跡地）へ、母校が西川津町から赤山へと、三つの学校がタイミングよく移転することは思い外の難事業でした。

当時の田部双松会長のご尽力はもとよりでありますが、直接に移転の業務に当られた校舎建設期成同盟会長の柴田午郎先生、今は亡き幹事長の馬場純一先生、校長であった兼折博先生、そして、事務局の担当であった諏訪秀富先生、松本幹彦先生たちの対県、市の当局との交渉、移転する学校の保護者や地元、関係者の理解を得るための話し合い、グランド用地の確保、起雲館の再建など、次から次へとおこる難問題の解決のために日夜にわたる献身的なご尽力と筆舌に尽し難いご苦労は忘れることが出来ません。

赤山への道は十年間の才月を要したまことに険しいものでしたが、遂に再び双松の懐に帰る日が訪れました。

昭和五十三年五月二十一日、二十八年ぶりに吾が母校が赤山復帰した日です。新校舎の竣工、創立百周年記念式典は将に生涯の感激の日でありました。

赤山への復帰運動の当時、PTA会長、双松会役員のひとりとして関与し、各先生方の往時の辛苦を想起し、感謝の一念をもって敢えて申し述べた次第であります。

かって、校長であった西村房太郎先生は双松に象徴される「質実剛健」を強調され赤山の伝統的気風を醸成されたときいています。

「質実」と「剛健」を校風として、権勢にこびず時流におもねらない生活信條をかたくなまでに守る赤山精神は、今日、心を忘れすべてに物を中心した風潮の中にあってまことに尊い存在ではないかと思います。

先きの委員会において母校の創立百二十五周年記念の総会を明年の秋に開催することが決定されました。明年は輝かしい二十一世紀を迎える意義深い年でもあり盛大に、そして内容の充実した記念総会にいたしたいと考えています。

会員の皆様も一人でも多くご参加を頂き、皆様とともに母校の前途を祝福し、お互いに旧交を温め新たな出会いを作って頂ければ有難いと存じます。

近年、母校の生徒諸君の活躍はめざましいものがあります。今春の大学合格者状況にしても質、量とも未曽有の成績をあげ、マスコミにも取りあげられて全国の注目を集めております。また、今年の県高校総合体育大会においても総合優勝をいたし、念願の三連覇を達成をしました。

文系部活動も盛んですばらしい活躍をしている由で、まことに嬉しい限りであります。

このことは生徒諸君の真摯な学習活動と師弟同行の実践に努められた教職員の不断のご努力の賜物であると存じます。

今、吾が国の教育は大きな節目を迎えようとしています。吾が母校が、このような重要な時期に教職員が心を一つにして、「質実剛健」の精神を根底に据え、文武両道に徹する心豊かでたくましい人間、創造力豊かな人間育成のため更に精進されることを祈ってやみません。

「北高生を育てたい」

校長　鞁嶋　弘明

今年は例年にない猛暑でしたが、双松会会員の皆様方には御健勝にて御活躍の事とお慶び申し上げます。

松江北高校も明治九年創設以来、今年で百二十四年目を迎え、双松会会員も約三万五千人となりました。私達教職員は生徒を育てる事がすべての職業ですので、会員の皆様の存学中の実績と社会での幅広い活躍を自信と誇りにし、輝かしい伝統を継承しつつ、「質実剛健」を基盤に、文武両道の精神を重んじ、赤山での教育活動に取り組んでいます。新聞紙上、高校生による犯罪が賑わっている昨今ですが、赤山の高校生は真摯な学校生活を続けています。

今年三月の進路状況を見ますと、東京大学八名合格をはじめとして、国公立大学合格者三七三名、私立大学合格者四九四名、短期大学等合格者六三名となっています。ベネッセコーポレーションの調査によると、国公立大学三七三名の合格者数は全国公立高校で一位と聞き、たいへん喜んでいます。また在校生の現在の学力を見る時、全国のトップレベルにあり、将来を期待している所です。一方部活動において、運動部は六月に行われた島根県総合体育大会で三年連続男女総合優勝を果たし（通算十五回目の優勝）、全国大会（インターハイ）に約四十名の生徒が出場いたしました。来年は島根県総体史上初の四連覇を狙います。文化部では合唱部が昨年全日本合唱コンクールで金賞（一位）を獲得し、今年も順調に勝ち進んでいます。また郷土史研究部が八月静岡で行われた全国高校総合文化祭で「古墳」をテーマに最優秀賞（一位）を獲得し、全国まんが大会、全国英語弁論大会でそれぞれ三位と入賞ラッシュが続いています。松江北高校の教育活動もほぼ順調に進んでおり、教職員の献身的な指導や生徒の活気あふれる活動を見るとき、校長として感謝の気持でいっぱいです。しかし学校は作るのはたいへんですが、壊すのは簡単です。また一度壊れるとそれを修復するには長い年月が必要です。私は常々現状に満足する事は後退のはじまりだと考えています。従って今後とも気を引き締めて学校運営にあたるつもりです。

この度、文部省が実施した学校評議員制度を島根県において本校はいち早く希望いたしました。これは地域や社会に開かれた学校づくりのために校長が学校外の意見を聞くためのしくみでありますが、私の真意はこの伝統ある松江北高校が永遠に発展するためには、学校外の意見に忠実に耳を傾け、双松会、PTA、地域等と密接な連携を保ち、協力を得ながら信頼される事が不可欠と考えたからです。私達教職員松江北高校生徒を二十一世紀の日本に貢献するたくましい人間に育てるために精いっぱい頑張りますので、双松会会員の皆様に今後とも御支援、時には忠告をよろしくお願い申し上げます。

松籟（しょうらい）

詩人宮澤賢治がその最晩年の数年間集中していたのは、文語詩という仕事である。それは死の自覚が底流する切実な作業だった。そのなかに次の一篇がある。

瘠せて青めるながら頬は
九月の雨に聖くして
一すじ遠きこのみちを
草穂のけふりはてもなし

「ながら頬」は汝の頬であり、「聖く」はキヨク、「けふり」はケブリと訓むのであろう。これを、静謐な「聖なる肖像」だ、と読んで、たぶん詩人の詩想にたがうことはあるまい。

ところで『明治四十二年県立第一中学校一覧』中「創立以来卒業生氏名並状況」欄のひとりの人物に注目する。

四十年卒業／東京外国語学校生／青柳亮（松江市、士族）

さらには『昭和十年編松江中学校卒業生名簿』の記述にも注目する。

青柳亮／東京外語（英）・京大法／満鉄北鮮鉄道管理局庶務課長／朝鮮清津府

さて、再び詩にもどる。

引用したのは昭和五年以降に成った自伝詩篇のひとつ、最終形態だが、実は、開始稿には判然と題名があった。

青柳教諭を送る。

明治四十三年の旧制盛岡中学で、宮澤は青柳亮に英語を学び、秋には、ともに岩手山を登り小岩井農場に遊んだ。実際は一年にも足らぬ期間の、師弟関係なのである。しかし詩人は、遠い記憶のなかでこの青柳亮を選びとり、忘れ得ぬ「師」としてあざやかに詩に結実させて後、昭和八年病に逝った。

ここで満鉄以後の青柳氏を追うのは無用だろう。むしろこの赤山に集い学んでいる生徒をみつめていると、あらためて教員とは何かを考えてしまう。

意図するしないにかかわらず、生徒の心に「深く」分け入ってしまう存在……共感ともなり拒絶ともなりうる、それは渾沌……として、いま私がそのような立場に立っている事実。そして責務。

そのことを教育の基盤として〈一すじ〉の覚悟にまで踏みこんで、その歩みを質しつづけていくところに「師」の要件があるかともみえる。それがまた、〈青柳教諭〉の後輩としてつながりうる、唯一の仕方でもあるのだろう。

事務局より

事務局（校内幹事）の転出入
平成12年4月の人事異動

＜転出＞
梅瀬　龍司（第21期）
田中　正樹（第32期）
伊藤　尚子（第40期）

＜転入＞
吉城　聖顕（第24期）
山本　富朗（第29期）
川谷　毅（第38期）
奥名　正徳（第39期）
山代　典子（第41期）
松本　学（第42期）
遠藤　雅己（第42期）
安達二美代（第45期）

平成11年度　双松会会計決算書

収入総額　6,231,674円
支出総額　3,781,757円
差引残高　2,449,917円

1．収　入

費　目	本年度予算	本年度決算	増　減(△)	備　考
入会金	3,120,400	3,242,100	121,700	全日制　延べ 14,323人×200円 通信制　151人×2,500円
繰越金	2,983,336	2,983,336	0	平成10年度からの繰越金
繰入金	0	0	0	
雑収入	6,264	6,238	△26	預金利息他
合計	6,110,000	6,231,674	121,674	

2．支　出

費　目	本年度予算	本年度決算	増　減(△)	備　考
会議費	300,000	170,053	129,947	役員会、各地総会補助
印刷費	450,000	444,528	5,472	会報印刷代
通信事務費	2,500,000	2,313,915	186,085	会報発送代、役員会案内など
記念品費	550,000	517,524	32,476	オルゴール代、卒業証書用筒
旅費	320,000	264,610	55,390	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	100,000	21,127	78,873	慶弔費など
予備費	1,840,000	0	1,840,000	
合計	6,110,000	3,781,757	2,328,243	

平成12年度　双松会会計予算書

1．収　入

費　目	本年度予算	昨年度予算	増　減(△)	備　考
入会金	3,120,400	3,120,400	0	全日制　延べ 14,352人×200円 通信制　100人×2,500円
繰越金	2,449,917	2,983,336	△533,419	平成11年度からの繰越金
繰入金	0	0	0	
雑収入	9,683	6,264	3,419	預金利息など
合計	5,580,000	6,110,000	△530,000	

2．支　出

費　目	本年度予算	昨年度予算	増　減(△)	備　考
会議費	300,000	300,000	0	役員会、各地総会補助
印刷費	450,000	450,000	0	会報印刷代
通信事務費	2,500,000	2,500,000	0	会報発送代、役員会案内など
記念品費	550,000	550,000	0	オルゴール代、卒業証書用筒
旅費	320,000	320,000	0	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	100,000	100,000	0	慶弔費など
予備費	1,310,000	1,840,000	△530,000	
合計	5,580,000	6,110,000	△530,000	

平成11年度決算

松江北高通信制課程同窓会

1．収　入

費　目	小分類	予算額	決算額	摘　要
繰越	繰越	410,547	410,547	
	計	410,547	410,547	
会費	新入会費	300,000	453,000	@3,000×151
	計	300,000	453,000	
雑収入	雑収入	3,000	108,123	役員会費　108,000 利息　123
	計	3,000	108,123	
合計		713,547	971,670	

2．支　出

費　目	小分類	予算額	決算額	摘　要
会議費	役員会費	280,000	288,734	役員34名、教員２名
	地域会議費	60,000	15,000	10の会、25期雲南衛看
	計	340,000	303,734	
事業費	会誌発行	0	0	
	計	0	0	
事務費	事務費	10,000	5,000	
	計	10,000	5,000	
雑費	雑費	350,000	344,528	全国定通大会補助　48,000(@1,500×23名) 卒業記念オルゴール　165,900 卒業証書筒　26,376 女子バスケットボールユニフォーム　100,000 旧職員弔電　4,252
	計	350,000	344,528	
予備費	予備費	13,547	0	
	計	0	0	
合計		713,547	653,262	

3．差し引き　971,670－653,262＝318,408　は次年度へ繰り越し

特別会計（積立金）

	収　入	支　出
H 10 年度より繰越	357,206	
平成 11 年度	25,476	
合計	382,682	

差し引き　382,682は次年度へ繰り越し

退任にあたって

金築　修

井戸内会長のご就任を得て、このたび私の役目を終えることができました。双松会が井戸内会長とともに二十一世紀へ向けて新しい展開、躍進の歩を進めることを心から期待しております。

在任中本部の役員会、東京双松会、近畿双松会などの機会に、多くの先輩後輩の知己を得、またその目覚しい活躍の様子を知ることができたのは、私にとって大きな喜びでありました。

しかしながら一方では、そうした会員の方がたの活躍ぶりを広く同窓会員全体に知っていただく機会、方法が限られていることに多少の苛立ちめいたものも感じました。それというのも、現在の双松会の組織、財政、運営の仕組みでは、会務のいろいろな部分の負担が松江北高の教職員の方がたに、公務でもないのに、掛るようになっているため、双松会活動の拡充ということには大きな制約があるというのが実情であるからです。

では、今後どういう方向でこれを打開することができるでしょうか。

これについては、会報や会員名簿などの同窓会としての情報伝達の方法の問題だけでなく、同窓会というものについての意識、考え方の見直しも必要になってきているというべきではないでしょうか。

同窓会とか同窓生というと、ともすれば「いっしょに学んだ」友だちであるからとか、大体同じころに同じ校舎に在学していた先輩、後輩であるからということで、同窓会の会合に集まり、交流の輪が拡がる、というのが同窓会の一般的な姿であります。これはいわば人間関係の絆を過去の時点に求めているものであるといえます。勿論それで当り前なのですが、見ようによってはただ懐しさだけに依りかかった姿であるともいえます。

そこで、もう一方でこの古い絆に加えて、新しい絆を作り、ともに発展させることができるならば、会員の中のそれぞれの世代の意識も活発になり、同窓会の意義をいっそう発揮できるのではないかと考えます。

インターネットの普及してきた今日の時代ですから、同窓会についてもこれを核としたネット関係が形成できれば、古い友だちはそのまま現在の友だちであり、先輩、後輩もいながらにして身近かな交流の輪の中にいるという状況が実現できるようになります。

現在のインターネット上のホームページやEメール、iモードメールの浸透状況がある程度予測的状況を示しているように、ITが普く浸透した近未来の社会の中では、確実に右にのべたようなことが可能になると思います。また、そうなるように同窓会も体制づくりをしていく必要があると思います。

駄弁を弄しましたがご海容下さい。

おわりに、会長在任の三年間において、会務のためにご援助ご協力いただいた役員、幹事の皆さま、また、公務の傍、多大の労力と時間を割いて、双松会の会務と運営にご尽力いただいた松江北高の諸先生、事務職員の方がたに心からお礼を申し上げます。

平成十二年度役員会報告

本年度の役員会は、去る六月十九日(月)に開かれ、金築会長を議長として次の議題について審議が行われた。

議　題

一、平成十一年度会務報告
二、平成十一年度会計決算報告
三、平成十二年度予算案審議
四、平成十二年度発行の同窓生名簿について
五、その他

議題一～三については原案の通り承認され、四については、大要は承認され、掲載項目等の検討が常任幹事会に一任された

双松会役員

（平成十二年八月末日まで）

顧　問　柴田　午郎（松中44期）
会　長　兼折　博（松中52期）
副会長　金築　修（松中61期）
　　井戸内　正（松中65期）
　　山本　隆志（松高6期）
　　鞍嶋　弘明（北高校長）
　　景山一功朗（松高2期）
幹事長　田中征二郎（松高13期）
副幹事長　諏訪　秀富（松中65期）
常任幹事　松本　幹彦（松高1期）
　　井原　泰（松高3期）
　　庄司　肇（松高11期）
監　事　山口　栄一（松中67期）
　　古瀬　誠（松高16期）
事務局長　石原　肇（北高教頭）

平成十二年度新双松会役員

顧　問　柴田　午郎（松中44期）
　　兼折　博（松中52期）
　　金築　修（松中61期）
会　長　井戸内　正（松中65期）
副会長　松本　幹彦（松高1期）
　　山本　隆志（松高6期）
　　鞍嶋　弘明（北高校長）
幹事長　景山一功朗（松高2期）
副幹事長　田中征二郎（松高13期）
常任幹事　諏訪　秀富（松中65期）
　　井原　泰（松高3期）
監　事　庄司　肇（松高11期）
　　山口　栄一（松中67期）
　　古瀬　誠（松高16期）
事務局長　石原　肇（北高教頭）

通信制役員会報告

事務局　坂本　育穂

日時　7月15日(土曜日)14時～
場所　パレスティーまがたま(松江)

出席役員
藤原　万也（　）卒業年
広永　浩二（40）松江・会長
那須　晴雄（37）飯石・赤来
小野徳次郎（39）出雲
稲田　仲夫（41）平田
松本　一司（44）益田
森山　峯也（45）兵庫・尼崎
高木恵美子（45）松江
佐藤　康治（46）安来
曽田　永子（49）平田・三企代表
伊豆名保子（48）能義・伯太
中島　実（50）松江
中井　正（52）大原・大東
竹下　隆（53）出雲
杉原　文栄（54）松江
濱村　治夫（60）出雲
海透　晃司（61）松江
西田　稚晶（61）能義・広瀬
日立機械科代表
竹下　孝子（1）松江
花田　広紀（2）松江
吉岡　芳茂（2）松江・玉木建設
藤原　重成（3）八束・島根
河瀬　悦子（4）平田
高梨　包美（5）松江
小笹　武明（45）松江・監事
後藤　寛（45）松江・監事
事務局　中西教頭先生、木下先生、坂本

日程　会長あいさつ　藤原会長
学校現況報告　中西教頭議事
(1) 平成十一年度決算
同監査報告　後藤監事
(2) 会務報告
昨年度派遣費補助を行った全国定通大会の成績は華々しいものはなかったが、集団として日立生の諸君が一般生に交じって最後の奮闘をしてくれた。初出場の女子バスケットボールチームは本会寄贈のユニフォームでがんばったが2回戦で惜敗した。
地域同窓会として申請のあったものは「10の会(H10年度卒業)」と「雲南衛看25期生の会」の二つ。
同窓会開催の際は事務局にご一報下さい。次のような補助をします。10名以上1万円、10名以下五千円。
(3) 平成十二年度予算
全国定通代表大会派遣費補助として@千五百万円を支出。出場者への補助はこの他に、生徒会、後援会等々がありこれはほんの一部である。そして今年は女子バレーボール部のユニフォームを寄贈することになった。これで男子バレーボール、女子バスケットボールと三年連続のユニフォーム寄贈である。
なおこの大会は本年より遂に一般生のみの選手出場となった。卓球、陸上、バレーボール、バドミントンの4種目12名である。
懇親会　一年に一回の顔合わせのこととて盛会、閉会一七時。

これまでのご寄付者
斎藤三枝子、広永浩二、森山峯也

ご寄付を頂ければぜひお願いします。同窓会費は終身会費で、収入にも限りがあります。どうかよろしく。

平成12年度予算

松江北高通信制課程同窓会

1．収入

費目	小分類	予算額
繰越	繰越	318,408
	計	318,408
会費	新入会費	360,000
	計	360,000
雑収入	雑収入	2,000
	計	2,000
合計		680,408

2．支出

費目	小分類	予算額
会議費	役員会費	290,000
	地域会議費	20,000
	計	310,000
事業費	会誌発行	0
	計	0
事務費	事務費	10,000
	計	10,000
雑費	雑費	350,000
	計	350,000
予備費	予備費	10,408
	計	10,408
合計		680,408

3．差し引きなし
特別会計（積立金）

	収入	支出
平成11年度繰越	382,682	
合計	382,682	

松江北高校通信制同窓会役員名簿

役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年	役職	氏名	卒年
会長	藤原　万也	43	理事	児玉　敏子	50	理事	西田　稚晶	61
副会長	野津　裕	43	〃	桑垣　房人	51	〃	西村　繁	62
〃	広永　浩二	40	〃	坂本　夏美	51	〃	影山　重利	63
理事	那須　晴雄	37	〃	横山　信子	51	〃	竹下　孝子	1
〃	山本　輝二	38	〃	中井　正	52	〃	足立　弘美	1
〃	小野徳次郎	39	〃	浜田　祝子	52	〃	安部　清春	2
〃	金築　長男	40	〃	正木　和子	52	〃	花田　広紀	2
〃	稲田　伸夫	41	〃	竹下　隆	53	〃	吉岡　芳茂	2
〃	柳楽マサミ	42	〃	杉原　之栄	54	〃	藤原　重成	3
〃	瀬崎　鶴夫	43	〃	伊東　健治	55	〃	河瀬　悦子	4
〃	松本　一司	44	〃	多久和京子	55	〃	高梨　包美	5
〃	森山　峯也	45	〃	奥谷　寿久	56	〃	前田　俊昭	6
〃	高木恵美子	45	〃	澤和　富吉	56	〃	足立　定則	7
〃	佐藤　康治	46	〃	新原　正雄	57	〃	千原　朋	8
〃	今岡千恵美	46	〃	岩浅　利正	58	〃	影山　肇	9
〃	藤本　伸宏	47	〃	小前　勝房	59	〃	景山　豊満	10
〃	曽田　永子	47	〃	上代　安枝	59	〃	三島　春美	11
〃	伊豆名保子	48	〃	持田由利子	59	〃	田久和剛史	12
〃	木鶯　正勝	49	〃	浜村　治夫	60	監事	小笹　武明	45
〃	中島　実	50	〃	海透　晃司	61	〃	後藤　寛	45

平成十二年度総合体育大会　男女総合優勝

（Aグループ・大規模校）一八八・〇点
三年連続十五回目
男子総合一位　一〇三・七点
二年連続七回目
女子総合二位　八五・〇点

第三十八回島根県高等学校総合体育大会は、五月二十六日～六月五日まで県下各地で熱き戦いが繰り広げられました。

本年も男女総合優勝！勝つことはできる、しかし勝ち続ける事は大変難しいことです。先輩から後輩へ脈々と受け継がれている優勝の感激、自分達の代で負けられないプレッシャの中での練習や勉強との両立、それらの事がごく当たり前と感じる環境が大きな要因だと思います。これがメンバーが揃わない時でも、絶対だめだと言われながら土壇場で大きな力を出す事につながっています。優勝の数こそ少ないですが、各部が着実に点を取りまさに総力の結集です。

三十五回大会で史上初四連覇の夢を二点差で阻まれてから三年目、偉業への大きな夢に向かって橋渡しとなる本年度の優勝でした。文武両道を教育の大きな柱として教職員、保護者が一体となり卒業生の応援を受けながら日々努力を積み重ねてきた結果であると思います。

以下、大会の主な成績と全国大会への出場者をあげておきます。

全国大会出場者
・陸上　小笹　淳（棒高跳び）
・新体操　神谷　聡
・弓道　天津　広起
・テニス　大久保紀一朗・赤松　学
温品　俊一・持田　誠也
久保田　淳・是津みゆき
長谷川奈緒美・本郷悠佳
多久和　馨・福田　絵美
竹澤佐知枝・田中　路子
川村　綾子・大畑　円
渡邊　諒子・石倉志保・
堀江　温子・木瀬　恵子
・ソフトテニス　上岡拓矢・井出恭平
以上23名

・バスケットボール
女子
・バレーボール
男子
・バドミントン
男子団体　準優勝
男子個人ダブルス　安達・渡部
女子団体　ベスト8
女子個人ダブルス　平塚・秦
・サッカー　平塚　ベスト8
・ボート
男子
シングルスカル　内藤　三位
ダブルススカル　松江北　二位
女子
シングルスカル　木瀬　優勝
舵手付フォア　松江北　優勝
・弓道
男子団体　準優勝
男子個人　天津　優勝
・剣道
男子団体　ベスト8
男子個人　村上　三位
・柔道
男子60kg級　長野　ベスト8
男子66kg級　山本　ベスト8
男子73kg級　鎌田　ベスト8
男子90kg級　中沢　二位
男子100kg級　曳野　ベスト4
・陸上競技
男子
一〇〇M　花本　二位
棒高跳び　向村　二位
砲丸投げ　渡部　六位
四×一〇〇MR　小笹　優勝
女子　高橋　二位
一〇〇M　四位
一〇〇MH　清水　四位
二〇〇M　畑　六位
四〇〇M　井上　二位
四〇〇MH　島田　五位
走高跳　畑　四位
四×一〇〇MR　岩成　三位
四×四〇〇MR　佐藤　八位
・水泳
男子
五〇MF　佐々木　六位
一〇〇MF　松崎　八位
二〇〇MF　松崎　四位
一五〇MF　佐々木　三位
一〇〇M平　森　四位
二〇〇M平　石倉　二位
一〇〇M背　亀田　四位
二〇〇M背　石倉　二位
二〇〇MメドR　笠木　五位
四〇〇MメドR　笠木　七位
四〇〇MFR　亀田　二位
八〇〇MFR　森　四位
女子
五〇MF　古田　五位
一〇〇MF　高居　三位
二〇〇MF　福原　優勝
一〇〇MF　福原　優勝
四〇〇MF　高居　四位
二〇〇M背　原　四位
一〇〇M平　水野　六位
四〇〇MメドR　高居　三位
四〇〇MFR　二位
・ソフトテニス
男子個人　上岡・井出　ベスト6
・硬式テニス
男子団体　優勝
男子個人ダブルス
温品・持田　ベスト4
赤松・石井　ベスト4
大久保・久保田　ベスト8
大輝・原　ベスト8
シングルス　大久保　ベスト4
赤松　ベスト8
温品　ベスト8
女子団体　優勝
女子個人ダブルス
長谷川・多久和　三位
シングルス　是津　三位
・新体操
男子個人総合　神谷　優勝
・卓球
女子団体　ベスト8
・登山同好会
男子団体　三位
タイムレース　一位

「本年度の進路状況」

多様化や変化が取り沙汰されて久しい大学入試も、この三年間でようやく整理され落ち着いた感があります。変化と多様化は大学入試の方法のみならず、大学のあり方と学生たちの大学観にも現れているようです。

まず入試の方法ですが、それぞれの大学が、その特徴と求める学生像を明確にし、それに応じて選抜の方法を明確にしていった結果、ほぼ三種類の流れが定着してきました。

ひとつは、従来から何かと批判の多かった競争選抜型の入試です。例えば国立大学は、大学入試センター試験を一次として課した上にさらに各大学が個別の学力試験（二次試験）を実施します。基礎的な知識とその運用力の有無と達成度を複数の科目で重ねて問い、大学で行われるさらに高度な教育や研究実践に円滑に移行できる学生を選抜するのが狙いです。特に理系では、二次試験の受験科目を増やす傾向さえ出てきました。当然、競争も激化し、受験生の負担は明らかに増えていますが、国際競争に耐えうる頭脳資源の育成・確保はもはや大学の存続のみならず、国の存亡にもつながりかねない重要問題になっていることを示しているのかもしれません。

もうひとつは基準達成型入試と呼べるものです。具体的な教科・科目だけではなく、特定の問題に関する発想力や独創性や解決能力等に関する基準を設定し、それをクリアした学生を入学させる入試です。特定する基準の数を減らし、個性ある学生を重点的に入学させて、大学のみならず社会を活性化しようという意図が背後に存在します。

三番目は、全入型入試です。従来のような明確な入学基準は設けず、まず志願者全員を合格させ、たとえ一、二年生次に高校レヴェルの英数の補習を実施しても、入学した学生を四年間かけて有為な人材に育てあげることが大学の大きな使命であり、存在意義だという発想から生まれたものです。

競争選抜型入試しか存在しなかった三〇年前に比べると、今の受験生は、上記のいずれかの入試を利用すれば大多数が大学に進学できるという「ぜいたく」を享受しています。入学時のこの「ぜいたく」は同年令人口の約半分が大学生であるという高学歴時代の到来を物語ると同時に、「大学に入りさえすれば何とかなった時代」の終わりを告げています。この三年間の社会状況の変化は、ようやく日本の大学生に「大学での四年間は社会人になる前の自由時間ではない」ということを教え始めています。「大学合格」は人生を保証する手形ではなく、少々無茶をしても許される免罪符でもなく、人生に数多く存在する「通過点」のひとつにすぎないことに学生たちも気づき始めています。大学もまた、何をどれだけ学生に教えるかということのみならず、どういう目的でどういう人材を育成できるかという能力を問われる時代になっています。

そういう時代の中で、北高生は今年もすばらしい合格実績をあげました。国立大学合格者の数だけ見ても、五十三万人が受験したセンター試験を皮切りに、五倍を越える競争にまで難化した二次試験をねじふせて、三〇三人という過去五カ年で最高の合格者を出しました（公立大学合格者をあわせると三七三名）。国立大医学部医学科の合格者も十四名と昨年に倍する数に達しています。

こうした成果は、北高生ひとりひとりが三年間かけて懸命に力をたくわえ、自らのその力で未来につながる最初の関門をこじあけていった結果だと思います。学校と家庭で少しずつ育てきた小さな芽がようやく開花したその背後には、ひとりひとりのすばらしいドラマがありました。

次に彼らがすることは、咲かせた花にどのような実をつけていくかということです。大学進学もまた、結実のためのひとつの過程であり、どのような収穫ができるかはさらに一生の課題になるはずです。私たちもまた、この「赤山」での三年間が未来に続く充実した準備期間であり続けるために、生徒諸君とともに努力を続けていくつもりです。

平成11年度学校種別合格状況（平成12年３月集計）

	平成10年３月			平成11年３月			平成12年３月		
	現役	卒生	計	現役	卒生	計	現役	卒生	計
国立大学	213	64	277	219	70	289	234	69	303
公立大学	29	14	43	32	8	40	60	10	70
私立大学	410	193	603	404	181	585	344	150	494
短期大学	80	6	86	54	5	59	38	1	39
専門学校等	20	1	21	26	1	27	22	2	24
就職	1		1	1		1			
合計	753	278	1,031	736	265	1,001	698	232	930
クラス数	10クラス			10クラス			10クラス		

各期だより

松中六十五期（昭和二十年卒業）同窓会全国大会

昭和二十年卒業後、今年は五十五周年に当たり東京で初めて全国大会を行った。参加者三十二名（内ご夫人二名）あり。記念写真撮影終了後、五時半に開会。加田君の司会により①「赤山健児の校歌を斉唱」②井戸内会長の挨拶③東京代表の長谷川君の歓迎の挨拶④物故者へ黙祷⑤本部を代表して森山君が五年間の経過報告（出雲弁が大好評）⑥北海道の神山君の音頭で「乾杯」し懇親会に移った。五年振りの再会で唯々懐かしく話が弾んだ。我々の在学中は戦争に始まり、戦争に終わり、勤労奉仕や鉄工所への学徒動員で授業が削りに削られた。しかし少い授業の割に出席者の顔ぶれは、本省の局長。大学の教授。上場の一流企業の役員。病院長。事業主等あり、多士済々で感服した。これこそ赤山の「質実剛健」の精神の賜物と思われた。宴酣の中、全員で応援歌を熱唱した後、ホテル内の日本間に場所を移し二次会を開いた。友が入り乱れての談論風発大いに盛り上がった。最後に次回六十周年に再会を誓い合い、閉会となった。この度の大会は東京在住の皆んなが夫々分担し合い、心から歓迎してくれ本当に嬉しく胸がつまった。さて松江地区六五会は「毎年六月五日、四時。一文字屋ホテル」で同窓会を開いていますので全国の皆様帰松の機会を造って是非参加して下さい。

（六五会事務局　森山　定）
TEL〇八五二(23)一一四八）

（森山記）

同窓会名簿について

五年毎に発行している同窓会名簿ができあがり、購入予約された方には郵送にてお送りしております。予約されていない方で、購入を希望される方は事務局名簿係までご連絡ください。また、昨年お送りいたしました払い込み用紙でも受け付けますので、払い込み用紙にご記入の上、代金を払い込んでください。

価格　5,000円

特別寄付

双松会会員より母校に対して温かいご寄付を賜り有難うございました。主なものは、次の通りです。

◎　十月二十一日、双松会昭和六年会松江地区有志（松江中学昭和六年卒業同窓会）の代表　清水　正（医学博士）様より寄付金（十万円）いただきました。双松会常任幹事会にはかり、北高の部活動激励金として使用させていただきました。

◎　十一月一日、島根県農林水産部にお勤めで、山林部赤山会の会員太田耕一さん（十八期卒業）と幹事長土江健雄（二十七期卒業）さんを中心に、今年度北高卒業生に対して卒業記念樹三五〇本を頂きました。樹種は、キリシマツツジ、キンモクセイ、ドウダンツツジ等十五種類を希望に応じて配布されました。

（双松会事務局より）

H十三年一二五周年記念総会開催日時決まる

日時……平成十三年十一月十七日（土）
会場……ホテル一畑

H十一・十一・一
常任幹事会にて了承

編集後記

母校に赴任して二年目、双松会の校内幹事として初めて仕事らしい仕事をさせていただきました。来年は、一二五周年記念総会も開かれます。この機会に同窓会など行われる際には、双松会会報担当まで原稿を送っていただけると喜びます。執筆を依頼した方々には、ご多忙の中、快く原稿をお寄せいただきまして本当にありがとうございました。心よりお礼申し上げます。